

平成21年度国際大会海外派遣報告書

1	派遣大会名	The 31 st William Jones Cup Internationals Basketball Tournament (MEN)					
2	派遣期間	2009/7/17~7/27					
3	報告者	有澤重行 (山口県)					
4	派遣先	台湾(台北市)					
5	大会概要及び大会結果						
	(1)大会名称	The 31 st William Jones Cup Internationals Basketball Tournament (MEN)					
	(2)大会期間	2009/7/18~7/26 (9日間)					
	(3)大会内容	参加全チームの1回戦総当たり戦にて決定する。					
	(4)参加国ならびに順位	イラン	IRI	6勝2敗	ヨルダン	JOR	7勝1敗
		レバノン	LIB	6勝2敗	台湾A	ROC - A	6勝2敗
韓国		KOR	5勝3敗	フィリピン	PHI	2勝6敗	
台湾B		ROC - B	2勝6敗	カザフスタン	KAZ	1勝7敗	
日本		JPN	1勝7敗				
ヨルダンは勝数でイランを上回るが、7月23日VSイラン戦において試合放棄をして、没収処分を受けており、主催者の判断によりイランの優勝となった。							

6	大会参加審判員ならびにコミッティー				
	NAME (Mr.)	NATIONAL(FIBA)		NAME (Mr.)	NATIONAL(FIBA)
1	MARWAN Egoh	LIB(accompany)	16	TSAI,Fu-Shan	ROC
2	Ferdiand Pascual	RHI(accompany)	17	CHUNG,Yi-Chi	ROC
3	KIM Young Woo	KOR(accompany)	18	HUANG,Yi-Chi	ROC
4	Jafar Mohammad Pour	IRI(accompany)	19	Huang,Ho-Yung	ROC
5	HSU,Te-Chun	ROC	20	Wu,Ying-Wei	ROC
6	CHEN,Chuan-Chin	ROC	21	YUEN Chun-Yip	HKG(neutral)
7	LEE,Sheng-Mo	ROC	22	ARISAWA Shigeyuki	JPN(accompany)
8	WANG,Wen-Hsang	ROC			
9	Chen,Chun-Chin	ROC			
10	LIN,Chin-Lung	ROC	TD	WANG,Jen-sen	ROC
11	CHAN,Tai-Sheng	ROC			
12	WU,Chien-Wu	ROC			
13	CHANG,Kuang-Yu	ROC			
14	HUANG,Hsien-Ming	ROC			
15	LEE,Chien-Ming	ROC			

7	担当したゲーム					
	日付	対戦	割当	パートナー		ゲーム雑感
1	7月18日	LIB - ROC/B	U1	KIM Young Woo	YUEN Chun-Yip	オープニングゲーム。地力の差でレバノン勝利
2	7月19日	ROC/B - KOR	U1	YUEN Chun-Yip	Ferdiand Pascual	台湾Bが善戦するも韓国が終盤突き放す。
3	7月20日	RHI - KAZ	U2	YUEN Chun-Yip	KIM Young Woo	主審がカザフHCにテクニカルファウル。
4	7月21日	JOR - ROC/A	U2	Jafar Mohammad Pour	KIM Young Woo	終始JORからアピールが、リングの上のプレイがたくさん起こった。
5	7月22日	LIB - PHI	U2	KIM Young Woo	Jafar Mohammad Pour	前日LIBは判定に納得がいかず、15分中断。U1がLIB #5にTF。
6	7月23日	ROC/A - LIB	U2	Jafar Mohammad Pour	Ferdiand Pascual	何を吹いてもアピールするレバノン。毅然と吹くことを心掛けた。
7	7月24日	ROC/A - KAZ	U1	MARWAN Egoh	KIM Young Woo	前日LIB戦で完敗だった地元台湾が気迫あるプレーで勝利。
8	7月25日	ROC/B - PHI	U2	Jafar Mohammad Pour	KIM Young Woo	クリーンなゲーム内容、選手もゲームに集中していた。
9	7月26日	ROC/A - KOR	U2	YUEN Chun-Yip	Ferdiand Pascual	満員の中で地元ROCの最終戦。公平に判定するように心掛けた。

8	審判会議・その他ミーティング等内容					
<p>今大会のテクニカルディレクターの王人生氏より歓迎のあいさつ。 ・多くの参加チームが中国天津で行われるABCのプレ大会と位置づけて参加しているのでチームと審判にとってお互いいいものにしてください。 ・台湾ではバスケットボールはとてもメジャーなものであるので円滑な大会運営に協力してほしい。 ・3人制である。 ・支給されたレフリースーツ(NIKE製)を着用すること。 ・毎日ESPN局によるTV放映あり。第1・第3ピリオドにはTVタイムアウトを導入する。担当ゲームの翌日にDVD支給あり。 ・審判料として1,500台湾ドルが、各試合のハーフタイムで支給された。</p>						

9 審判技術・判定基準等に関すること

・大会期間中に審判員がミーティングを行うこともなく、試合後の反省等もあまり行われませんでした。その中で判定内容については、普段日本で指導されていることや、普段の取り組みのままで違和感がないと思いました。逆の視点からいえば、日本での指導システムや指導内容を平素から理解し、課題を持って取り組むことで海外でも違和感なく審判ができると思いました。有澤がパーフェクトであったわけではないですが、自身が試合を終えて反省として頭に残ること、選手やベンチのアピール等を思い返してみると、日本での審判活動で起こる事象とかけ離れているという実感はありませんでした。

・日本でもよく話題にあがるトラベリング、フロッピング、悪い手の使い方等は、参加している審判員・ベンチ・プレイヤー・観客も同等の意識を持っており、審判団はシビアに取り上げているのが印象的でした。しかしながら、一つ一つのプレイをよく確認せず雰囲気だけで判定することや、責任エリア外をわざわざ吹き込むケースは、結果的に苦しい判定につながることを改めて感じました。

・インターフェアやゴールテンディング覚悟でブロックショットにくるプレイが多く、リングよりも上で起こるプレイに関する意識の希薄さを感じました。自分が判定しなくてはいけないケースを幾つか助けてもらいました。ブロックショット以外でも日頃考えにくいプレイ(スクリーンの肘の使い方や、オフボールでいろいろなことが起こることなど)に対して「審判3人で助け合う。」というチームワークの必要性を感じました。

・3人制メカニクについては、経験が乏しい有澤にとっては非常に不安な要素でしたが、審判同士で動きを常時確認できたことと、ゲームを重ねる毎にチームや選手の情報を入手できたことによって、ゲームに集中することができました。また、翌日にはDVD支給があったので動きにおいて反省や課題を持って次のゲームにはいることができました。3人制なのでオフボールを漏れることなく判定することができるので、3人制のメリットを実感することができました。またそれは同時に、自分の責任エリアは自分の責任でしっかりと判定しなくてはならず、バスケットの技術のさらなる理解を求められているとも思いました。

10 全体の感想及び提言等

台湾はバスケットボールが非常に盛んで、熱狂的なファンを目の当たりにして、非常にやりがいを感じる事ができました。没収試合、乱闘、中断、観客からペットボトル、頻繁に起こるテクニカルファウル…こういう事態が緊張感を持たせ、時として不安や恐怖を持ち続けた9試合でした。そのようなときに頼りになるのは結局自分なのですが、今回はパートナーにも恵まれました。韓国の金英雨氏とは従事した9試合中6試合を一緒に吹かせていただきました。彼との会話の中で「何が起こるか予想がつかない国際大会で、一つ一つの判定にこだわることも大事だが、国際大会は何よりも無事にゲームを終わらせる事が大事。」と教えていただきました。一つ一つの正確な判定の積み重ねがあってこそゲームがスムーズに進むのですが、審判の予想しないところでトラブルが起こりえることもあるので、どんなときでも確実に、安全にゲームを終了させることも大事だということを大会をつうじて実感しました。とっさの対処に備えてルールに精通すること(適切なルールの適応)、英語力の向上、人間性の向上等の自分なりの課題を見つけることができました。(金英雨氏は橋本部長と大親友で、韓国でも高いポストにおられるそうですが、とても可愛がっていただきました。)

日本代表チームはアメリカ遠征からそのまま台湾に入った肉体的な疲れや、選手の怪我で苦しい結果となりましたが、戦い続ける姿がとても印象的でした。倉石HCをはじめスタッフの皆様、選手の皆様にはいろいろとお世話になりました。

最後に、派遣に際してご尽力いただいた日本協会の皆様へ御礼申し上げます。台湾協会のスタッフの皆様、参加したFIBAレフリー全員が日本協会そして日本のレフリーのレベルの高さを評価されていましたし、今までの諸先輩方の活躍や交友関係を背景として今回良い経験をさせていただいたということは決して忘れてはいけなかったと思います。最後に出発から帰国まで暖かく日本から見守っていただいた橋本部長、日本代表とは別の旅程(有澤は福岡空港発着)の詳細をご用意いただいたJBA事務局の野村様に御礼申し上げます。

山口県 有澤重行